

鹿島建物のSDGs

鹿島建物はグループ経営の理念である「社業の発展を通じて社会に貢献する」に基づき、ストック時代における建物の長寿命化と建物で過ごす人々の「安全・安心・快適」をまもりつづけてきた。「防災」「環境」「スマートビル」「感染症対策」など、今後も多様化する建物管理・運営のニーズに応じていくことが、「SDGs (持続可能な開発目標)」達成への貢献につながると考えている。



SDGsとは

Sustainable Development Goalsの略称。2015年に国連サミットで定められた、「持続可能な開発」のための国際目標。目標を達成するためには「経済」「社会」「環境」の要素が調和している状態が求められる。そのために17の目標(ゴール)が定められ、それぞれの目標に設定された全169のターゲットから構成されている。



SDGsの17の目標

持続可能な社会の実現にむけて 鹿島建物ができること

当社は設備管理・清掃・警備などの建物の維持管理を基幹業務としながら、鹿島グループの「総合」力を駆使して、総合マネジメントサービスの提供を行ってまいりました。

昨今の企業経営は世界共通の目標である「SDGs」の実現が最も重要とされています。建物は単なるスクラップ&ビルドではなく、より効率的に長く使う「長寿命型」に移行しており、環境負荷の軽減を図りながら人々の「安全な暮らし」を確保する維持管理手法が求められています。その意味で当社の事業活動の達成そのものがSDGsのほとんどと合致します。

当社は、建物管理業界に先駆け2004年から蓄積してきた建物のデジタル管理情報を強みとしています。AIやBIM、IoTを利用したDX（デジタルトランスフォーメーション）による省人化や管理の精度向上と効率化をさらに加速し、鹿島グループのマテリアリティに視点を合わせながらお客様の期待に応え、社会にも貢献してまいります。



代表取締役社長
山本 和雄

鹿島グループが 優先的に取り組む課題 [7つのマテリアリティ]

鹿島グループではSDGsへの貢献をはじめとした社会課題の解決に積極的に取り組むための「マテリアリティ(重要課題)」を決定した。まちづくり、建造物の構築や社会インフラ整備の分野から鹿島グループの貢献と特に深く関連するSDGs項目を選定した。そして、「社会」「環境」「事業継続の基盤」という3つの切り口で7つの項目を掲げた。

鹿島グループ7つのマテリアリティ		鹿島建物の主な取組み
「社会 環境 事業継続 の基盤」	1 新たなニーズに応える 機能的な都市・ 産業基盤の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ● PPP*としての公共施設における包括管理業務の展開 ● PM・FM・建設プロジェクトマネジメントサービス事業の展開 ● 建物の管理運営・区分所有のコンサルティング業務の展開 ● M&Aによる当社事業の付加価値拡大 ● 異業種とのコラボレーションによる新たな事業・価値の創出 <small>* PPP (Public Private Partnership) とは、官民連携のことで行政と民間が連携して、より効率的で質の高い行政サービスの提供を目指すという考え方</small>
	2 長く使い続けられる 社会インフラの追求 	<ul style="list-style-type: none"> ● リニューアル工事、マンション大規模修繕の展開 ● 建物診断技術、BCP診断サービスの展開 ● CAFMを利用した継続的な履歴管理による施設の維持・保全 ● 建物管理分野におけるIT化の促進 ● PPPとしての公共施設の縮減政策支援、まちづくり協議会への参画 ● 「鹿島スマートBM」プラットフォームの推進 ● 研修センターの運営・活用
	3 安全・安心を支える 防災技術・サービスの提供 	<ul style="list-style-type: none"> ● PPPとしてのBCPソリューション・システムの展開 ● 制震・免震装置の維持管理 ● コールセンター業務の展開 ● 施設警備業務の展開 ● 海外での事業展開および技術展開 ● サブスクリプション化によるサービス提供範囲の拡大
	4 低炭素社会移行への 積極的な貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ● エコチューニング事業の推進 ● 各種省エネ診断サービスの提供 ● 廃棄物の発生抑制および適正な処理委託 ● メガソーラー施設の管理および羊による除草 ● 水素社会実現に向けた建物管理ノウハウの展開
	5 たゆまぬ技術革新と 鹿島品質へのこだわり 	<ul style="list-style-type: none"> ● 鹿島グループ連携によるフロントローディング活動 ● クラウドサービスの活用 ● データドリブン組織に向けた取組み ● 建物管理業務のための屋内ドローン技術の開発 ● VR、AR、MR技術の開発・活用
	6 人とパートナーシップを 重視したものづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ● 外国人材、シルバー人材採用の推進 ● 女性活躍のための基盤づくり ● PPP・鹿島グループ連携による地方創生SDGsワーキンググループへの参画
	7 企業倫理の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ● 内部統制を担保した基幹業務システムの構築 ● 秘密情報取扱い強化の取組みの策定・展開

鹿島建物の事業を通じたSDGsへのアプローチ

CAFMを利用した継続的な履歴管理による施設の維持・保全



CAFMは、建物にかかわるあらゆる情報をデジタルで一元管理するシステムです。当社はCAFM展開実績が業界トップクラスを誇ります。長年の蓄積データの分析を通じて現状把握・将来予測等を行い、建物の資産価値の維持・向上に貢献します。



点検作業

月次報告書

データ分析画面

PPPとしての公共施設における包括管理業務の展開



包括管理とは地方自治体が保有する複数の公共施設をまとめて管理する手法です。専門ノウハウを生かし、管理品質の向上に努め、安全・安心な環境づくりをサポートします。また、施設情報を一元化し効率的な修繕計画・予算管理を行います。

地方自治体

- 市庁舎
- 学校
- スポーツセンター
- 公民館
- 給食センター
- 図書館
- 市民センター
- その他

鹿島建物

エコチューニング事業の推進



エコチューニングとは環境省が定めた省エネビジネスモデルで、建築物の快適性や生産性を維持しつつ設備機器の効果的な運営を行うことをいいます。鹿島建物は2017年にエコチューニング事業者として認定を受けました。



「鹿島スマートBM」プラットフォームの推進



複数の建物の中央監視装置の遠隔操作やIoTセンサーなどで取得したデータの自動的なクラウドへの収集をセキュアに実施。AIエンジンが学習することで、エネルギー消費予測や設備異常の早期発見、設備の最適運転を実現します。



鹿島グループ連携によるフロントローディング活動



設計・施工段階から当社も参画することで、設備メンテナンスや運営を踏まえた最適解の検討を行います。これにより、竣工後のスムーズで高品質な施設運営につなげます。



各種省エネ診断サービスの提供



全国の支社・営業所に省エネ事業推進担当者(省エネキーマン)を配置しています。また、独自の診断・解析・評価ツールを活用した効率的・効果的な省エネサービスを展開しています。



エネルギー分析・評価



省エネ法対応



省エネルギー診断